

# 公立病院初！外来患者さんの院内での移動を快適に 市民病院に「WHILL」自動運転サービスが登場

横浜市立市民病院では、高齢者等の外来患者さんを主な対象に、「WHILL」自動運転サービスを4月から導入します。このサービスは、羽田空港や一部の大学病院等で導入されているものと同様のもので、利用者は自分で操縦することなく、タッチパネルで選んだ院内の目的地へ移動することができます。

導入  
機体



## 導入の目的

杖などを利用している患者さんの利便性・快適性向上を図るとともに、本サービス導入をSDGsの取組として捉え、市民の皆様が高齢になっても住み続け、必要な医療を安心して受けていただくための一助とします。



## サービスの概要

外来1階フロアにあらかじめ設定したルートで自動運転で走行します。  
[導入台数] 1台 [稼働時間] 月曜～金曜 10時から15時まで

利用手続き不要  
ご自由にお乗りください



## 走行ルート



※機体が電磁波を発するため、ペースメーカーなどの医療機器を装着または植え込んでいる方はご利用になれません。詳しくは院内の掲示をご確認ください。

# PARK HOSPITAL

安心と  
つながりの拠点

YOKOHAMA MUNICIPAL  
CITIZEN'S HOSPITAL

2024

April

TAKE FREE

Vol. 40

横浜市立市民病院 広報誌 [パークホスピタル]



特集

足病変に悩む患者さんの窓口に  
「フットケアセンター」  
横浜市民病院ネットのご紹介

特集 足病変に悩む患者さんの「窓口」に

# フットケアセンター

市民病院で2022年10月に始動し、複数の科や職種が連携しているフットケアセンター。診療体制が強化され、ますます充実する「足のケア」とは一体どんなものなのでしょうか。フットケアセンターの小浦医師、竹丸医師、蒲原医師の3人に聞きました。



左から竹丸医師・小浦医師・蒲原医師

フットケアセンター長  
循環器内科 担当部長

小浦 貴裕

TAKAHIRO KOURA

形成外科長 代理

竹丸 雅志

MASASHI TAKEMARU

皮膚科長

蒲原 毅

TAKESHI KANBARA

## 01 フットケアセンターとはどんなところか、教えてください。

小浦：足のトラブルに関する総合的な窓口となるのが、フットケアセンターです。重症化のリスクが高い足のトラブルについては、各科で密な連携を図ることが欠かせません。当センターの設置により、足に関わるさまざまな診療科や職種が患者さんごとの方針を共有し、同じ目標に向かって速やかに診療しやすくなりました。患者さんの立場からしても、「どこを受診すればいいの？」と悩むことなく、必要な医療をスムーズに受けやすくなったわけです。



<フットケアセンター連携図>

## 02 診療の対象となるのは、どんな患者さんですか。

小浦：難治性の足病変（潰瘍など）を抱える患者さんを診療しています。難治性かどうかを測る目安の一つが、約2週間という期間。例えば、爪を切ったときに周辺の皮膚を傷つけてしまい、それが2週間たっても治らない場合は難治性と考えられます。糖尿病を抱えている方や透析治療を受けている方、高齢の方が多いですが、そうした患者さんに診療対象を限定しているわけではありません。症状としても潰瘍に限らず、冷感が強い、むくみがひどいなど、幅広い悩みに対応しています。

## 03 複数の診療科が関わっているそうですが、それぞれの治療内容について教えてください。

小浦：血液の流れが悪化すると栄養や酸素が全身に行き渡らず、傷の治りも遅くなってしまいます。そうした事態を改善するため、循環器内科では、狭くなった血管を内側からカテーテルで広げる治療などを行います。また、他の合併症の可能性を考えながら、全身状態を管理するのも私たちの役目です。

竹丸：形成外科では、感染または壊死した組織を手術で切除して、傷の治りを促します。一方で、歩行機能を維持するためにできるだけ足（組織）を温存することも重要なので、「必要かつ十分な範囲の組織」を切除するように心がけています。一人ひとりの背景に応じて、丁寧に治療方針を組み立てていきます。

蒲原：足の傷に気付かず放置すると感染が広がり、患部が腫れることで一層血流が滞る——という悪循環が起こりかねません。潰瘍が悪化すると、皮膚に穴が開いてしまうこともあります。皮膚科では、そうした足の病変を早期にキャッチし、他科の医師とも協力しながら必要な処置を行います。

## 04 当院のフットケアセンターならではの特徴はあるでしょうか。

小浦：循環器内科、皮膚科、形成外科の3科が密に連携している点です。外来では各科の診察室が隣り合っていて、検査の数値と患者さんの状態を見比べながら、専門家同士で相談し合って診療方針を検討できます。患者さんにとっても、一度の通院で複数の診療科にかか

りやすいメリットは大きいでしょう。また、足を洗うためのフットケアシンクで実演しながら洗い方のポイントを伝えるなど、糖尿病看護認定看護師が再発予防の指導を丁寧に実施しています。

竹丸：フットケアセンターというと皮膚科や形成外科がイメージされやすいのですが、当院では循環器内科の医師が中心となって当センターを立ち上げました。全身状態のコントロールを担う循環器内科が軸となって情報を集約し、入院先も同科に統一することで、傷だけでなく患者さんの全身状態を考慮して診療できることが特徴だと思います。

## 05 フットケアセンターを受診するにはどうしたらいいですか。

小浦：紹介制なので、まずはかかりつけの先生に相談してください。市民病院へ通院中の患者さんは、主治医の先生から紹介（院内併診）してもらうことも可能です。実際、地域の透析病院から紹介を受けて当センターを訪れる患者さんがとても多いです。今後は地域の医療機関との連携をより強化し、在宅療養の方にもフットケアを届けられるようにしていきたいと考えています。足の悩みを持つ方は、いろいろな場にいるはずですから。

## 06 最後に、患者さんへのメッセージをお願いします。

蒲原：ぜひ、自分の足をもっと気にかけてほしいと思います。例えば、お風呂で足を洗う際に傷や出っ張りがないか観察するなど、「いつもと違う点」を意識することが重要です。早期発見を通して、大切な足を守りましょう。

竹丸：「足を人に見せづらい」と感じる方は多いものですが、不安なことがあったら、ためらうことなく相談をしてください。早めの受診を心がけていただきたいです。

小浦：日常的なケアも重要で、清潔保持や保湿、正しい爪切りなどがポイントになります。そうした点のアドバイスもフットケアセンターでは積極的に行いますので、「足の困りごと」を一人で抱え込むことなく、気軽にご相談ください。

# フットケアセンター 「足病変の治療」



「足病変」とはどのような症状なのでしょう？  
具体的な例をいくつかご紹介します。

フットケアセンターの対象は、なかなか治らない足の傷を持つ患者さんです。さまざまな原因から生じる足の傷に対して、複数の専門家が協力して診察にあたり、総合的に診断、治療、再発予防を行います。

具体的には(1)重症下肢虚血(血流不足に伴う冷感・疼痛、色が青黒い、2週間以上治らない潰瘍)(2)糖尿病性足病変(糖尿病患者に生じる胼胝(いわゆる“タコ”)や靴など物理的な圧迫に伴う潰瘍)(3)静脈うっ滞性潰瘍(下肢のむくみに伴う下腿の潰瘍)です。足先の冷感、安静時痛などの軽症例から、下腿まで広がる広い範囲の潰瘍・壊疽などの重症例まで幅広く対応します。特に傷から膿が出たり悪臭がしたりする場合や、色の変化や痛みが日に日にひどくなるなど進行の速い場合は急を要します。



フットケアセンター長  
循環器内科 担当部長  
**小浦 貴裕**  
TAKAHIRO KOURA

## 足病変の患者さんを私たちがサポートします

糖尿病看護認定看護師

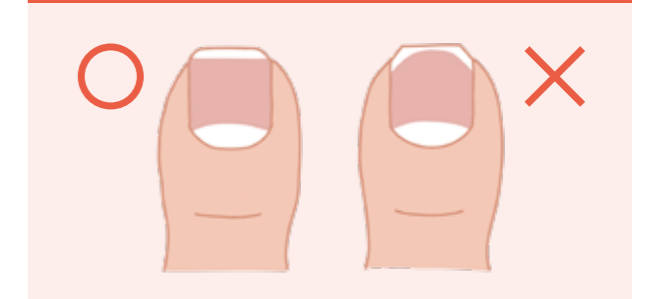


糖尿病看護  
認定看護師  
**飯尾 美紀**  
MIKI INOUE

フットケア外来や糖尿病教室で患者さんの足を拝見していると、深爪やかかとのひび割れ、足の指の冷感のある方を多く見かけます。深爪は陥入爪や巻き爪の原因になるといわれています。爪は指の先端と同じ長さでスクエアオフ(先端に丸みをつけず四角い形)に切ります。爪切りは、平型という刃先が直線状のタイプがスクエアに切りやすいです。爪をいっぺんに切ろうとすると割れてしまうので、1枚の爪を少しずつ切っていくことが大切です。爪やすりを使うのも良いでしょう。かかとのひび割れや皮膚の乾燥は、保湿クリームでの保湿が重要です。足をお湯に15分程度つける足浴は保温や保湿の面で一石二鳥だと思います。また、足浴後にク

リームを塗ることで保湿の効果が上がります。手間がかかると思われがちですが、最近はホームセンターなどでも足浴バケツを見かけるようになりました。足の冷感に悩まれている方は試してみてもいいかもしれません。糖尿病患者さんは、足の皮膚が弱く、感覚が鈍っていることがあるので、手でお湯の温度を確かめることを忘れずに。また、足に傷のある方は原則として足浴を避けてシャワーなどで洗うことになるので、担当医に確認をしてください。

爪はスクエアオフに



### 足病変の具体例



#### 虚血性潰瘍・壊疽

- 足の末端に生じやすく、周囲は冷たく乾燥している。
- 壊疽すると黒くなる。



#### 圧迫性潰瘍

- 靴に当たりやすいところや、タコ自体による圧迫から潰瘍を生じる。
- 周囲は温かい。



#### 静脈うっ滞性潰瘍

- 足からふくらはぎにかけて、むくみがあり、足首の少し上あたりに潰瘍ができる。
- 周囲は色素沈着で黒っぽくなっている。

### 理学療法士



リハビリテーション部  
担当係長  
**井出 篤嗣**  
ATSUSHI IDE

入院中は足の傷などの状態を評価しながら、関節が固

まらないようにしたり、筋力を増強させたり、移動能力が向上するように努めます。また、再発予防として運動指導を実施し、退院後の生活場面での注意点などもお伝えします。入院中に切断となった際は、できるだけ早くベッドから離れられるようサポートし、どのような装具が必要かを検討します。自宅へ退院の場合は、手すりやベッドなどの福祉用具の選定や生活するうえで必要な支援をチームで協力して実施します。

### 管理栄養士



栄養部  
担当係長  
**堀口 真樹**  
MAKI HORIGUCHI

足病変の治療をされている患者さんの中には、もともと

と糖尿病があったり体調がすぐれず食欲がなかったりする方もいらっしゃいます。私たち管理栄養士は入院中の患者さんが必要な栄養を摂取できているか確認し、食べられていない場合は食事内容の調整や、医師、看護師など他職種とも相談しながら、最適な栄養摂取ができるように働きかけます。また外来患者さんで食事にお困りの方には栄養相談を実施しています。遠慮なくご相談ください。



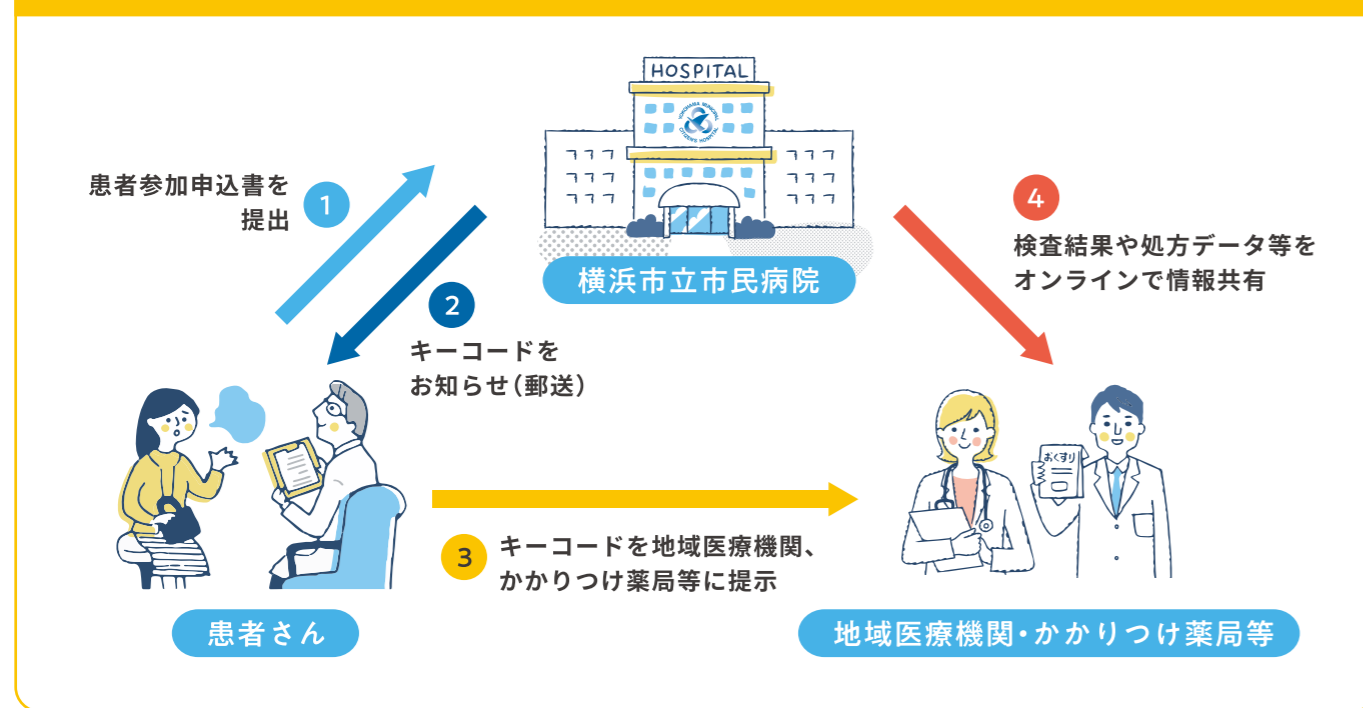
PICK UP NEWS

## 横浜市立市民病院 地域医療連携ネットワーク 「横浜市民病院ネット」

### 「横浜市民病院ネット」とは

横浜市立市民病院と、地域医療機関、薬局、介護事業所等で患者さんのカルテの一部を共有し、相互連携を円滑にするシステムです。患者さんが「横浜市民病院ネット」参加申込時に発行されたキーコードを参加医療機関等に提示することで、参加医療機関等は当院が保有する患者さんの医療情報（病名、検査結果、処方データ等）を参照することが可能になります。患者さん・ご参加いただく医療機関ともに費用はいただいておりません。

### 「横浜市民病院ネット」イメージ図



### ■「横浜市民病院ネット」に参加するメリット

- 横浜市立市民病院で治療を受けた際の処方歴、注射歴、検査結果、患者基本情報等について、地域のかかりつけ医や薬局、訪問看護師がオンラインで参照できます。
- 情報共有により、検査や薬の重複が防げるようになります。

### ■「横浜市民病院ネット」への参加方法

「横浜市民病院ネット」患者参加申込書にご記入の上、横浜市立市民病院(患者総合サポートセンター)または「横浜市民病院ネット」参加医療機関・薬局等にご提出ください。なお、「横浜市民病院ネット」における個人情報の共有について中止を希望される場合は、所定の様式をご提出ください。速やかに個人情報の共有を中止いたします。

お問い合わせ先

横浜市立市民病院 患者総合サポートセンター 地域連携係  
(受付:平日9:00~17:00)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1番1号 TEL:045-316-4580(代表) / FAX:045-316-6543



MEDICAL COOPERATION

## 患者総合サポートセンター 登録医療機関をご紹介します

### かなこレディースクリニック横浜みなとみらい(西区)

【診療科目】産婦人科・乳腺外科・女性内科

かなこレディースクリニック横浜みなとみらいは2022年2月に横浜駅東口に開業しました。忙しい女性の方にも気軽に立ち寄っていただける場所として、また、女性に特有の乳腺疾患や婦人科の病気を同時に診療可能なクリニックとして、そして、必要な時は高次医療機関への速やかな紹介ができる地域に根ざしたクリニックとして、一人ひとりに丁寧に対応をしていきます。妊婦健診(4Dエコー)、横浜市乳がん検診、子宮がん検診、各種レディースドック、一般不妊治療、一般婦人科診療を行っています。不安なことがありましたら、いつでもご相談ください。



佐藤加奈子理事長



診療時間		月	火	水	木	金	土
10:00~13:30	産婦人科	○	○	○	○	○	○
	乳腺外科	○	○	○	-	○	不定期
15:00~18:00	産婦人科	○	○	○	○	○	○
	乳腺外科	○	○	○	-	-	不定期

【休診日】産婦人科:日曜日、祝日 / 乳腺外科:木曜日、金曜日午後、日曜日、祝日

〒220-0011 横浜市西区高島1-2-5横濱ゲートタワー4階 TEL:045-663-3636 (予約専用ダイヤル:050-3395-2209)

URL: <https://kanacolc.com/>

### ほどがや脳神経外科クリニック(保土ヶ谷区)

【診療科目】脳神経外科・神経内科

当院は、脳疾患全般を診療、特に頭痛・認知症・脳卒中に力を入れております。しびれ(脊椎髄末梢神経)、てんかん、正常圧水頭症にも対応しています。開院以来、脳血管内治療科におけるカテーテル治療、脳神経内科における変性疾患やパーキンソン病、シンチグラフィーなど認知症精査分野で横浜市立市民病院と連携して診療を行っています。地域の皆様に寄り添い、「脳」のかかりつけ医となるよう努めてまいります。迷ったらどんなことでもお気軽にご相談ください。



日暮雅一院長とスタッフの皆さん



診療時間	月	火	水	木	金	土
8:30~12:00	○	○	○	○	○	○
14:30~18:00	○	○	○	○	○	-

【休診日】土曜日午後、日曜日、祝日

〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-17-3 YGY202 TEL:045-459-9588

URL: <https://hodogaya-nouge.com/>